



その場にいるだれもが自然と笑顔になってしまふ「幸せを写すカメラマン」として、細く長く活躍していきます！

杉 瑞穂さん

【プロフィール】

日常の中の一コマをそっと切り取ったような中高年の笑顔の写真を得意とするフリーカメラマン。「第12回志太ビジネスプランングランプリ」では、審査員特別賞を受賞。発表プラン「思い出を形にする出張撮影サービス自然な笑顔のYeah!遺影写真」は斬新な切り口ながら、その人らしさや幸せな瞬間をさりげなく自然体で記録してくれる愛情あふれるサービスである。2024年3月開業。

起業までの道のり

幼い頃からずっと、家族の中でカメラは私の担当で写真を撮ることに親しんできました。写真の知識は学校ではなく地元の写真館に出入りしながら、地域の写真愛好家の方々から教わり実践していく感じでした。女性3人でフィルム写真ユニットを組んで、撮影に行ったり写真展を開いたりという活動もしていました。その当時は自分が好きなものを楽しんで撮っているだけでした。

人から頼まれて撮るようになったのは15～16年前に富士市に住んでいた時に、頼まれてライブハウスでビッグバンドのジャズライブを撮るようになった頃からです。たまたま職場の隣にあったカメラ写真専門店での撮影の相談に乗ってもらい、もっと深く知りたくなってその店で働き始めました。しかし2年働いたところで、骨折で手を痛めてしまい転職を余儀なくされました。写真の仕事は力のある仕事なのです。その後夫の転勤で藤枝市に転居しイベント企画の仕事に就いたものの、次は更年期の症状で手が動かさない現実に苦しみました。この先周りに気を遣いながらどこかで働き続けることは無理なんじゃないかと悩みました。そんな時「自分にできること」を細く長く続ける方法はないかと考え、私は写真が撮れるじゃないか!ということに気づいたので。

しかしお金をもらえるようになるにはどうしたらいいかわかりません。ネットでエフドアのことを見つけてはいたものの、そこから更に1年以上1人で悩み続けました。50歳になったところで覚悟を決め真っ白な状態でも一歩踏み出してみようとしてエフドアを訪ねました。そして最初に「50歳ですけど間に合いますか?」と質問しました。「全然大丈夫だよ」と返ってきた時には心底ほっとしました。エフドアでは「女性のための小さな起業講座」の基礎編を紹介され、まず必要なのは仲間だと言われました。基礎編に通ったおかげで「起業の流れ」というのが分かりました。そして2024年3月に、フリーのカメラマンとして開業届を出しました。

起業で大変だったこと

起業前にもライブやイベント撮影の写真からフォトブックを作り、謝礼をいただいていた。実績は積み上げてきたもののプロとして本当に通用するかどうか、適正価格も分からない状態でした。1つ目の課題はやはり技術の向上。これまでフィルムのカメラを使ってきましたが、仕事するにはデジタルカメラに変えないといけません。全く異なる感覚を身につけるため、写真館の臨時カメラマンに応募しました。学校行事が集中する時期の勤務です。写真館のご厚意で体調に合わせて仕事を選ぶこと

ができました。またそこではプロとして撮る写真は何が違うのかを学び、伝えたいものを撮るためのプロの撮影技術も習得できました。開業後の今もこれは継続し、常に新しい技術を取り入れるよう努めています。2つ目は高額な機材を買うためにお金の準備が必要でした。しかしこれは、たまたまかつて積立NISAをしていたおかげで、ある程度まとまったお金を起業に使うことができました。3つ目は仲間。起業したもののどうしていいかわからず孤独だった時に、エフドアから「ふじえだ女性ビジネスアカデミー」を勧めてもらい参加したことで、信頼できる仲間たちと出会えました。

起業してよかったこと

実績としては、人生の節目の記念としての撮影依頼はあるものの今はまだ集客は知人頼みです。記念撮影というとききれいな格好をして写真館に行き撮るのが当たり前。カメラマンがやって来て好きなところで写真を撮るスタイルというのが浸透していない世代に、出張撮影の価値を認めてもらうのは難しいです。先日とあるご夫婦に米寿祝いのパーティーのフォトブックを納品したところ「うわー、このお父さんいいね」と言いながら写真を見る奥さんの表情がすごく優しかったんです。そういうお客様の様子を見て私も幸せをいただいています。よく頼んでくれるお客様がことあるごとに「この人はね、幸せを写すカメラマンなのよ」と私を紹介してくれるんです。私の周りで笑ってくれる人たちの幸せオーラを感じながら、



もっともっと笑顔の写真を撮っていいと思います。技術だけではない「幸せを写すカメラマン」として。

また起業したことで、体調の変化に合わせて自分の仕事を調節できるようになりました。周りに申し訳なく思ったり謝ったりしなくていいのでストレスがなくなり、家族の用事にも計画的に時間を充てることができ、生活のリズムも取りやすくなりました。

これからの夢や目標

「志太ビジネスプランングランプリ」で発表した「遺影」撮影サービスのきっかけは、富士でのジャズライブの撮影時まで遡ります。息子が高校生でバンドに入ったときにはすでに70歳のメンバーもいました。プロの演奏家として本格的に活躍していたような人が何人もいて、フォトブックの中で1人ずつ、何かメインになるものを残そうと考えるようになりました。そうしたところ自分がステージで楽器を吹いている写真が格好いいから、これを遺影にしたいと言う人たちが現れました。そして翌年には遺影を更新するから今年も頼むね、と。これは元気なうちに撮ったいい写真を遺影にしたいという需要が広がるのではないと思うようになったのです。実際PRはしているものの知人以外に「遺影」の撮影実績はまだありません。価値を知ってもらえるよう今は一生懸命種を蒔いている状態で、行く先々で情報発信してネットワークを広げています。

また起業したことで、体調に合わせて働き方を変えることができたので、これからは細く長く70歳、80歳になっても自分のできる範囲でお金を稼ぎたいです。それができる仕事だと思っています。まずは65歳でちゃんと稼げるカメラマンになっている



ことを目標に、今からやるべきことをやっていきます。それと私のように家族の転勤に影響を受けたり、不登校の子どもや介護が必要な家族がいたりして仕事を続けられない人たちが、生活に合わせた働き方を選択できる仕組みを私の事業の中で作れたらいいと思います。アシスタントや登録カメラマンとして撮影に参加したり、編集作業を自宅で行ったり、スキルを持っている人たちと「お互いさま」のできる仕組みを目指したいです。そのためにも、今の自分の事業をしっかりしたものにしていきたいです。

エフドアをこれから利用する人に

エフドアには行ってよかった!としか思わないです。自分ができることはたった1つ「写真が撮れる」ということだけだという時に、どうやって進んでいけばいいかを順序立てて、道筋をつけてくれました。エフドアで話した後は、未来が明るくなった気持ちで帰ることができます。そして1回の相談で終わらず、ずっと続けてフォローをしてもらえること。これがダメならこれ、何でも強みになるし売りにしていけばいいんだと、エフドアがいいところを探してくれるので私はそうやって自己肯定感を上げてもらっています。自分のいいところを見つけてくれるから、迷っているならまずは勇気をもって一歩踏み出すことをお勧めします。

スギのコハル写真工房

住所 藤枝市光洋台

Instagram <https://www.instagram.com/sugino.koharu/>

